

tamtam

2023.11

VOL.25

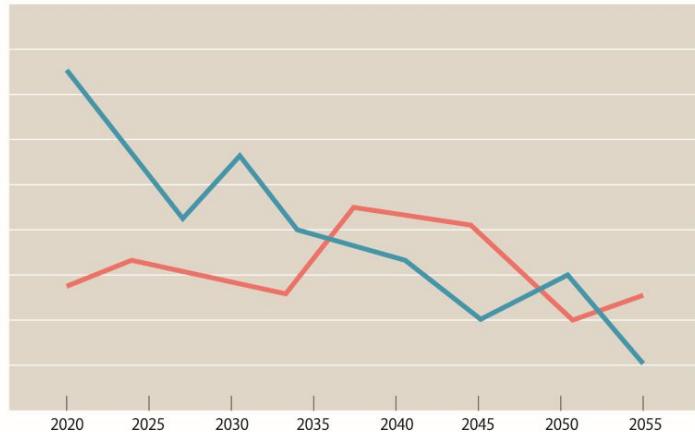
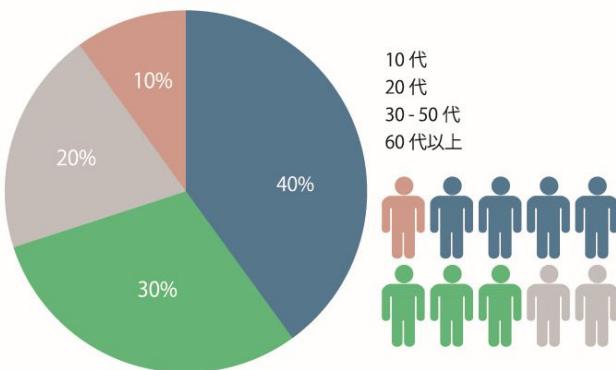
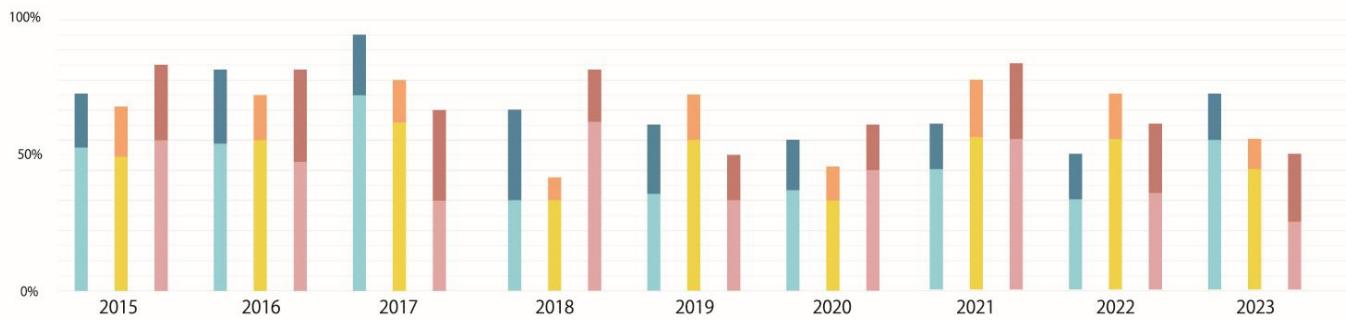
P1 [特集]住民自治にとっての人口減少を考える

P2 [特集]人口減少は課題か
人口減少をどう受け止めるかP3 隣の自治協さん「葛野報徳自治振興会」
丹波市民、学びの窓「丹波市の総合計画づくり」P4 繋ぐ!市民活動「どんぐり食堂」
活動事業者紹介「丹波の空き家相談所」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

住民自治にとっての人口減少を考える



人口の推移（過去移り変わってきた実数値）や推計（未来を推定した計算値）、または人口構成（年代別など）や出生率、転出人口など、人の数に関するデータは様々な場面で使われています。高齢者福祉・介護保険制度の設計、交通インフラの方針決定、学校の統廃合計画、災害時の安否確認、移住定住の促進、雇用調整、観光振興、最近では感染症対策の対策など挙げれば切りがありません。民間企業でも人口に基づいた店舗の出退店戦略などに活用されています。丹波市でも、様々な行政計画の基礎となり、また人口動態と推計、今後目指す人口構成を示した「人口ビジョン」も策定されています。

このように非常に重要な情報である人口データは、各市町村で

住民基本台帳が管理されたり、5年に1度国勢調査を実施したりして把握されています。これらの情報は、統計情報として公開されているので、誰もが人口に関する基礎情報を活用することができます。

ただし、公開されている人口に関する基礎情報が膨大なため、情報を活用する側にも適切に扱う資質が問われます。意図するかしないかに関わらず、情報が悪用される場合もありますし、切り出された情報を勘違いしてしまう場合もあります。

今回は、人口が皆さん暮らしにどのような影響を与えるのか、人口データを基に考えていきます。



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

Topics 01 人口減少は課題か

日本全国や兵庫県の人口のピークは、2010～2015年です。最近のようですが、丹波市は、1947年（第6回国勢調査）を境に人口は減少しており、今に始まつたことではありません。また、“人口減少は課題だ”と言われることも多いですが、人口が減ること自体は困りごとではなく、正確には、“人口減少によって引き起こされる様々な課題”と言うべきでしょう。

例えば“地域の役員のなり手が足りない”とよく耳にします。自治会で次の役員に誰がなるのか、揉めたり依頼に困ったり、確かに課題と言えそうです。ただ、「役員＝嫌なもの」という先入観が前提にないでしょうか。一部の極少人數の自治会を除き、多くの自治会では役員数を上回る人口が存在しています、“足りない”は本質的に発生しません。もちろん、「役員＝楽しいもの」とはなりにくいですが、考え方を見直すことで人口減少に関わらず改善される可能性もあります。さらに、人数が増えれば課題解決か、という点もあります。役員定年を引き上げたり、

担い手不足解消の視点から女性や若者を対象とする自治会もあります。しかし、これからも人口減少が進むとわかっている中^{*}では、課題は別にあるはずです。“地域の役員”的業務内容や必要性、負担感、選び方などあり方全般を見直していくかなければなりません。

担い手が減り、“草刈りができなくなってきた”といった課題は、まさに人口減少によって引き起こされていることでしょう。作業人数を増やすのであれば、地域に住んでいない人、例えば、他地域で暮らす親族、関わりある全ての人が参加できる呼びかけ、工夫をしていくことも必要です。加えて、今後にも繋がるような楽しい仕掛けも組み込むこともポイントになります。

人口減少は高齢化を伴っていることもあり、深刻な課題も現れてきています。だからこそ、課題整理や対策を検討し、できることから取り組むことが重要です。

* 本文では割愛するが、当面の間は継続的に人口が増える可能性は極めて低い

人口推計は最も精度の高い将来予測の1つ

人口の変動には様々な要因がありますが、単純化してみると死亡数と出生数の差による「自然増減」と、域外流出数と域内流入数（転出入）の差による「社会増減」、そして経年による「加齢」しかありません。出生数は合計特殊出生率と若年層の人口、転出入は過去データ等と傾向から予測できます。例えば、10年後の20歳の人口を予測する場合、今10歳の人の数と転出入の過去の傾向を踏まえれば概ね推計できます。特に丹波市など市町村単位であれば10年～20年後程度の予測では大きな誤差は出ません。実際、2015年までの人口データから予測^{*}した2020年の

丹波市の人口は61,511人でしたが、2020年に実施された国勢調査による実際の人口は、61,471人となり、誤差は40人程度でした。

* 国交省 國土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2 (H27国調対応版)」のコーホート変化率法にて予測。



Topics 02 人口減少をどう受け止めるか

出生率や転出入数を見ても人口減少が進む社会からは逃れられません。今すぐに出生数が増加したとしても、その子どもたちが次の子どもたちを生むまでに数10年かかります。地域外から転入してもらうとしても、日本中ほとんどの地域で人口が減り、特に若い世代が減っています。大都市へのアンバランスな人口集中は事実ですが、それは国単位での対応が必要であり、地域や市町村単位では、人の奪い合いとなってしまいます。もちろん、自治会などの小さい範囲では移住者が増加し続ければ、人口増加や世代の若返りも期待できます。しかし、他の地域から抜きん出ることは非常に難しいことです。

住民が今よりも多い時に受け入れていた多少の負担も、住民が減り、負担が少しずつ増えることが目に見えてくる状況になって

きたからこそ、“人口減少が課題だ”という見え方をしているのかもしれません。前述の通り、課題を紐解いていくと、実は人口減少とは少し違った原因や解決方法が見つかることもあります。

人口は、未来予測しやすいデータです。しかし、未来の社会そのものの予測は、専門家でも非常に難しいです。人口データなど定量的に示されるものは正しく読み取る（必要に応じて専門家の意見を取り入れる）ことが大事ですが、より大事なことは、住んでいる皆さんで将来を見据えながら、今から変えるべきことを変えていくことです。正しい答えが見つからない時代、たとえ間違ったとしても、またすぐに変えることができる柔軟性がこれから暮らしに必要不可欠なヒントになります。

さん 自 隣り の 自治 協の

TONARI no
JICHIKYO san

葛野報徳自治振興会

豊かな自然と「報徳」が根付いた暮らし

葛野報徳自治振興会（以下、振興会）は、氷上地域の西小学校区にあり、人口約2,200人、約850世帯、11自治会で構成されています。振興会の名前は、古くからの地名である「葛野」に加え、二宮尊徳の教え「報徳」を世に広めた葛野出身 佐々井信太郎を顕彰し、「葛野報徳」と名付けられました。

葛野地区は、東西に流れる葛野川を中心に、その周辺を山野に囲まれた自然豊かな地域です。市花であるカタクリの群生地や、農地を利活用したコスモス園などの自然観光資源に恵まれており、見頃の時期には多くの観光客で賑わいます。また以前からある栗の果樹園に加え、近年では黒枝豆の生産も広まってきているなど、農業生産も盛んです。

住民交流拠点としての「かどのの郷」

振興会の大きな特徴は、農産物・加工品の販売や食堂の機能を備えた施設「交流会館かどのの郷」の運営です。かどのの郷は、氷上地域と多可町を結ぶ県道78号線（通称：小春ロード）沿いの往来の盛んな立地にあります。食堂で提供している地元食材を使った「たまごかけごはん」が人気を博し、また先述のカタクリやコスモスの見頃の時期には市外から観光バスも訪れ、多くの人が賑わいます。

しかし、振興会が考える本来の目的は販売収入だけではなく、かどのの郷を住民同士の交流拠点とすることです。葛野地区では水田だけでなく畠地も多いことから、昔から各家庭で野菜を生産していました。かどのの郷での農作物の販売は、そういった個人が作りすぎた野菜を持ち寄るところから始まりました。現在では年間60名ほどの住民が農作物や惣菜・手芸品等を持ち寄って販売しており、それが住民の活力や生きがいに繋がっているといいます。生産者と消費者、住民同士がお互いに顔を合わせるきっかけを作ることで、地域の交流拠点としての役割を担っています。



佐々井信太郎の胸像。
西小学校からかどのの郷に移設された



地元で生産されたさまざまな農作物が並ぶ

丹波市民、学びの窓

まちづくりの羅針盤としての総合計画

総合計画とは、市の目指す将来の姿とそのために行う施策を分野別にまとめたもので市の最上位の計画に位置付けられます。丹波市では、現行の「第2次丹波市総合計画」の計画期間は令和6年度末に終了し、現在、令和7年度からの「第3次丹波市総合計画」の策定に向けて、丹波市総合計画審議会が設置され、これまでに7回の審議会が開催されました。

丹波市では右の6つの点を踏まえて計画づくりをしています。

丹波市のまちづくりに関する最高規範である「丹波市自治基本条例」では、「少子高齢化や産業構造の変化といった社会情勢に対応し、持続可能な丹波市を育むには、市民と市議会、

行政との間で情報を共有し、対話を重ねて協働でまちづくりに取り組む必要」があるとしています。総合計画の改定の6つのポイントでは、市民の参加が強く期待され、また市もそれに応える、協働していくことを約束しています。総合計画審議会の結果は市のHPで公開しており、審議会を傍聴することも可能です。みなさんも総合計画の審議の様子を見てみるのはいかがでしょうか。

総合計画の策定の進捗はこちら▶



①人口減少を踏まえ、市が抱えるさまざまな課題や社会環境の変化を適確に捉え、分野横断的な重要課題に柔軟に対応できる計画にする

②多様な主体が、まちづくりの課題や方向性を共感・共有し、総がかりでまちづくりに取り組んでいく計画にする

③市民参加を促し、市民協働で計画をつくり、市民の主体的な行動につながる計画にする

④丹波市にふさわしいまちづくりの独自性が発揮される計画にする

⑤分野別の計画と連動性を高めるための仕組みを構築した計画にする

⑥望ましい、こうなりたい「未来」のまちの姿を起点として、そこから逆算して「今」できることを考え、バックキャスティング手法を用いた計画にする



繋ぐ!市民活動

どんぐり食堂

どんぐり食堂は子育て世代を中心としたメンバーで、2018年10月に移動式の子ども食堂として活動を開始しました。子どもを中心に誰でも参加でき、一緒にご飯を食べて自由に過ごせる場を、市内6カ所で開いてきました。開催場所を移すたびに出てくる課題は、新しい協力者を集めたり、メンバーで知恵を集めたり、工夫して対応しています。地域の子どもたちのためにと、市民や事業所から食材・道具の寄付、活動場所の提供を受けるなど、協力の輪は広がっています。

2020年度からは新型コロナウィルスの影響で集う場を休止し、休校中に家で留守番をする子どもたちに弁当を届けました。これを機に活動の目的を見直し、

子どもとその保護者、食事の準備が大変な方を対象に、弁当の販売・配達を開始。弁当を直接届けることで、食事の準備だけでなく、お金の管理や買い物、社会的孤立など、利用する方々の暮らしの中の困りごとが新たに見えてきました。

現在は集まる場の再開に向けて計画中で、集まる場を再開しても、弁当販売・配達の活動も続けていく予定です。弁当の配達で見えてきた地域の課題は、子ども配達員を募集するなど、集まる場の参加者とともに考え、みんなの力でより良くなる方法を見つけていきます。

ボランティアスタッフや食材の寄付等、協力者を募集しています!

メール : tanba.dongurisyokudou@gmail.com



参加者の会話が弾む、集う場の様子



できあがった弁当を配達ボランティアに受け渡し



活動事業者紹介

一般社団法人 丹波の空き家相談所

一般社団法人丹波の空き家相談所は、「丹波の空き家ゼロへ」に挑戦する!』をミッションに掲げ 2021年に法人を設立しました。

代表理事の西垣雄一さんは不動産取引が可能な宅地建物取引業の免許を持ちながら物件の仲介業ではなく、空き家の専門家として空き家を所有している人のお悩みの解決に力を入れています。空き家を所有していることへの精神的負担や将来への不安を軽減するために、「相続した空き家をどうすればいいか」というアドバイスだけでなく、「本当は空き家をどうしたいのか」という想いを聞き取ることを大切にしています。相談には無料で対応し、売却や処分方法などの選択肢

を提案します。また、ホームページに加え、YouTube、Instagramといった情報発信媒体を活用し、幅広い方へ分かりやすく情報を届ける工夫をしています。遠方の在住で「丹波市のことよく分からず、ウェブで情報を見て」という方の相談が多いと言います。空き家所有者からの相談を専門にしている事業者は、丹波市以外の周辺地域でも珍しく、悩みから解放されたい人たちの受け皿となっています。

西垣さんは、空き家の仕事に携わる中で、移住に悩まれている方の支援も必要を感じており、「将来、住まいや仕事の紹介、子育て情報などをサポートする連携支援チームを丹波地域につくり、自分は空き家活用のサポートをしたい」と話しています。



豊富な知識と経験で空き家の状態を診断する西垣さん



引き取った空き家を改修し相談所として活用



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 – 18:00(会議室は21:30まで)／毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんがご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。